

バングラデシュレポート2020

2019年12月31日の早朝2時 私はバングラデシュのダッカ空港で、寒い中蚊に悩まされながらコックスバザール行きのデスクが開くのを待っていました。バングラデシュにもお正月という習慣があってこんなに移動する人が多いのか、それともいつもこんなに多いのだろうか、どちらにせよ人の動きは深夜であろうが早朝であろうが忙しい様子です。

コックスバザール行きの飛行機は霧のため30分遅れて飛び立ちました。近い将来コックスバザール空港は国際空港になるらしく、すでにその整備が始まって前回来た時より広い敷地になっています。待合所にて外国人登録を済ませてから荷物を受け取り門に向かうとラジョーさんの笑顔が見えます。側には背が伸びた長男のセナ君も一緒に迎えに来てくれています。会えた嬉しさをお互いに告げた後、ラジョーさん宅に向かいました。三輪車で走りながら目に入ってくる街の様子は前回よりゴミが掃かれて綺麗になっており、匂いも何となく薄くなっている様に肌で感じました。

今回の宿もラジョーさんの住まいをお借りすることになっています。お借りするという言い方をするのは、普段はラジョー一家4人が生活しているスペースを私達の為に空けて下さり、そのためにラジョー一家は階段の一角で寝泊まりするという事になってしまうのです。いつも申し訳なく思うのですが、今回も快く部屋を提供して下さいました。最初に感じたのはいつもより寒いということ。ラジョーさんに尋ねると今年の冬はいつもより寒く、乾季のはずなのに降水もあり朝晩とても冷え込みが厳しいとのこと。それを聞き更に申し訳なく感じてしまいました。

部屋に荷物を置き、持てなしのランチを食べた後は早速今回の目的をスタートします。

今回の訪問の目的は、

- 1) 支援している3村を視察
- 2) ロヒンギャ難民キャンプ視察
- 3) 仏塔公園の展望
- 4) GUCラカインセンターの活用状況等を見て回ること。

今回の訪問は滞在期間が短い為、まずは許可証が必要になってくるロヒンギャ難民キャンプへの申請と許可証の取得を優先して行うことにしました。

まずは現地の支援団体 "PULSE"バングラデッシュ事務所に行き申請書類を発行してもらい手続きを依頼し、写真を撮り事務手続きを待ちます。その間事務所のスタッフとロヒンギャ問題の支援の難しさを聞いたり、難民ビジネスの話の聞いたり、その内に書類は出来上がってきます。

その書類を持ち政府の難民オフィスに向かい、そこでやっと難民キャンプ場に入れる地域の許可が降りることになります。

5時には外は暗くなり、滞在1日目は終わりラジョー宅に帰りました。

でも明日一番で難民キャンプに入れることが出来、順調なスタートにホッとして長い1日を終えました。

2日目 (2020年 1月1日) ロヒンギャ難民キャンプ

毛布1枚では寒さを塞ぎきれず、前はこんなに寒くなかったのと思い出します。
明日からは毛布もう1枚お借りしよう！

今日 日本では新年をお迎えしていることでしょう。2020年より良き年になってと祈ります。

ラカイン族にとっては今日は新年のお祝いをする習慣はないのですが、ラジョーさんは私達の為にラカインのお正月料理を作って下さりました。美味しくいただいてから出発です。



(日本のお餅の様な食べ物、でも少し甘いです)

8時半 PULSE事務所に向かいます。

私達が許可されたキャンプ場は Kutuplong Camp.

難民キャンプに入るには私達の許可証、そして私達が乗る車にも支援団体を示す”PULSE Bangladesh”の旗がしっかりと外に見えるように飾ってあります。これで警察にも尋問されないしロヒンギャ難民からも安心されるということです。



キャンプ内の第一印象は、前回より活気があるように感じました。今現在この難民キャンプには74万人以上の難民が生活されているとのことですが、あくまでも推定に過ぎません。

ここで生活している難民の方には、最低限の毎日の食料がNGOから支給されていると聞きます。そしてここでの難民社の毎日の仕事は、支給される物資を配給所に取りに行くことだそうです。

中には商才のある人はキャンプ内でビジネスを始め、又これが活気をもたらししているようにも感じました。



今回の訪問は、前回訪問した女性だけのトラウマセンターや学校、病院等を訪問することが出来ず、キャンプ内を車で見て回り、所々で話を聞くだけに終わり残念でした。後日談ですが、許可されたキャンプ場内以外でも写真を撮っていた知人は警察に職務尋問を受け、ラジョーさんにも呼び出しが掛かったとのこと、キャンプ場内での状況が厳しくなっていることのようにも感じます。

難民キャンプでの状況から見えてくる女性の被害、女性というだけでの立場の弱さにより受ける被害の大きさに如何しようも出来ない憤りをおぼえてしまいます。そして幼い子供達の人身売買の被害。大人になっても癒えない幼い頃の傷をどうしたら癒してあげることが私達に出来るのだろうか？

他国の事だからと言っていいものだろうか？車から見える子供達の笑顔を見ながら今回も沢山の疑問を抱えて難民キャンプを後にしました。



- 難民キャンプ映像

<https://drive.google.com/open?id=13dvXfZ7cC1z8C9T0MWIWjmXdDrFWGbr>

2日目午後 Khurushkul村 (クルスクール村)

クルスクール村への道も昨年より舗装されましたが、オートリキシャの移動で依然首がムチ打ち状態になるのはどうしようもありません。

元気な声で出迎えてくれた25人の子供達。

みんなの顔を見て同じ顔に出会えて嬉しかったり、新しい顔に出会えたり、どちらも嬉しい瞬間です。

先生からみんなの様子を聞きながら校舎の状態を調べます。校舎内がとても暗いのが気になります。勉強に差し支えないかどうか後から先生に聞くことにしました。

みんなにはノートとボールペンとお土産を配り学校を楽しんで欲しいと伝えて教員室兼事務室に向かいます。

先生との面談は、

今年進級した生徒は、2年から3年に進級したのが5人

3年から4年生が6人

4年から5年生が1人

学校での学びがあつてこそその進級に先生からは感謝の言葉がありました。

又今後の要望として、

- 1 電気が無く冬場は昼間でも暗くなってしまうため電気をつけて欲しい事
- 2 天井の一部が落ちてきていて危険な為早急に修理をして欲しい事



NPOアースキャラバン側の返答は、

- 1 確かに教室は暗く、これでは冬や雨季の時には勉強し難い事と察し、電気を取付ける事
- 2 天井が剥がれていることも、子供達が怪我をしてしまう恐れがあり早急に修理する事

以上、早急に見積もりを出してもらい、工事に取り掛かれるようにしたいと伝えました。

前回の訪問の際に提案した全校生徒の課外学習、初めて水族館に行くことが出来て子供達には大変喜ばれました。誕生日会も1回は企画したようです。

NPOアースキャラバン側としては、子供達が喜ぶ楽しい企画は定期的に続けて欲しいと伝えているのですが、父兄としては外出に学校側だけに頼るのには不安があるとのこと。これについては今後は父兄も同伴してもらえたら不安も少なくなるのではないかと提案しました。

嬉しい出会いもありました。

現在いる先生は

Mong Ba Kin先生 数学、社会、ベンガル語担当

Yain Hla May先生 ベンガル語、仏教担当

そしてかつて里子さんだったSen Khin Mayさんが今は先生になってベンガル語、英語、数学を教えていました。とても嬉しいです。支援の成果のおかげと思います。



(Sen Khin Mayさん 写真右)

また里子だった Sen Senさんも高校生になっていました！



今回はご支援いただいている里親さんからのメッセージと写真を、子ども達にプレゼントしました。
里親さんが思い思いに送ってくださった日本の写真や里親さんに興味津々。子どもたちも自然と笑顔がほころびます。

Chofolondhi 村 (チョフロンギ村)

里親さん他会員の皆さんからのご支援により屋根が修理され雨漏りの心配も無くなり雨季の時でも冬の寒い時にも安心して学べる教室となりました。
今日出迎えてくれたのは15名の生徒達と村民、そしてこれから学びたいと集まって来た子供達49名。教室の中は期待で一杯になっていました。

先生は Nayloonさん、生まれつき足に障害をお持ちですが、教えることには大変熱心な先生です。



(Nayloonさん 写真左)

子供達みんなの顔を見て1年という長い時間の変化を感じました。幼かった顔には今は少し大人びた表情が見えます。背も伸びているようです。

”元気だった?”と聞くと、”元気だった”とみんなの声。昨年より教室に来ている子供達は増えていました。学校に来る楽しみは?と聞くと、みんなと色々なゲームが出来て楽しいし勉強もできるからと言います。ゲームと言っても日本の子供達の遊ぶゲームではなくて、校庭で遊ぶボールゲームだったり、かけっこだったりです。村に学校という場があることで集まり遊ぶ事が出来る、その学校の存在がとても大きいことを感じました。

子供達みんなにノートとボールペン、そしてお土産を配ります。

学校側からの要望

- 1 村の長老から、父親のいない子供が今6名いるのですがぜひ彼等の支援をお願いしたいとの事。
- 2 先生の要望は、教室に電気が無いこと、冬場は特に昼でも暗く勉強し難いので電気を付けて欲しい事。
- 3 夏場は建物の中にいると大変蒸し暑く勉強に集中出来ないので天井に扇風機を付けて欲しい事。

NPOアースキャラバン側の返答

- 1 6名の子供達写真を撮る。今後里子さんとして支援するかどうか検討しますとお伝えする。
- 2、3 電気も必要、扇風機も必要なので至急見積もりを出してもらうように提案しました。

(里子になる可能性のある子供達の名前と写真)

- | | | | |
|---|------------------|----|-----|
| 1 | Khin Sen Wan | 12 | 父死去 |
| 2 | Khin A Wan | 9 | 父死去 |
| 3 | Aolong Then Line | 12 | 父死去 |
| 4 | Khine Aye Nay | 12 | 父死去 |
| 5 | Sho Khing Chen | 15 | 父死去 |
| 6 | Cheng Shaw Aung | 17 | 父死去 |



ラカイン語クラス開講への要望

だんだん忘れられていく彼等の言語であるラカイン語。

教えられる先生も少なく、この村では今ラカイン語の授業は無く、村民は苦慮しています。ぜひ学校でラカイン語を教えてもらえないかと要望がありました。

今日私が学校に来ることを知ってラカイン語候補の先生が来られていました。学校の生徒以外にラカイン語を学びたい生徒が49名もいて、村民、子供達からお願いします!と。

できる限り村人の想いに応えたいと、NPOアースキャラバン側からは、先生への謝礼金額を提示して、ご検討下さいとお伝えしました。



3日目 Barbakiya 村 (バルヴァキア村)

Barbakiya村はラジョーさんのところから車で2時間弱の離れた村にあります。

村の入口まで行くと村長さんが笑顔で出迎えて下さりました。今日私の訪問を教室で待っていてくれたのは、1年生が7人、2年生が2人、5年生が7人の16名。みんな笑顔で出迎えてくれました。

最初に、ノートとボールペンとお土産を渡して、みんなの学校生活の様子を聞きます。学校に来る楽しみは、みんなと遊べて、学べることだそうです。



先生、生徒さん達からの要望は、

- 1 もっと学校に来る楽しさが増すように、バトミントンやサッカーボール等が欲しいこと。
- 2 今は黒板が無いので買って欲しい。
- 3 雨季に雨が教室に入らないように雨よけのカーテンかシートが欲しい。
- 4 子供達が非日常を楽しめるピクニックを企画して欲しい。

NPOアースキャラバン側からの回答は、

- 1 即買うようにする。
- 2 黒板も必要なので即買うことにする。
- 3 お店で調べて見積もりを出してもらうこと。等お願いしました。
- 4 ピクニックな先ずは1時間程のところにある公園にランチを用意して行く事を提案し、早急に見積もりを提出してもらう事を伝える。

また 制服があったらもっと学校に来たくなり勉強する気になるのに。との声にこちらも善処しますとお伝えして村を去りました。

里子・村支援と言っても全ての子ども達の希望を満たし、村の希望を叶えて差し上げるのは無理な事。

でも最低限、勉強する環境作りをしてあげたいとNPOアースキャラバンは願っています。



仏舎利公園

こちらの支援はタオサンガが司っています。
お二人の庭園管理者は毎日朝早くからゴミ掃除、草取り、水やりと働いて下さります。
お陰で木々は生き生きとして植物園のようになっています。この庭園はコックスバザール、
いいえバン格拉デシュ一番の清潔で綺麗な庭園と私達は自負しています。



(お庭の管理をしてくださっています)

GUCラカインセンター

今バングラデッシュの人々は、パソコンをあまり使わなくなってしまった為にパソコン教室に生徒さんが来なくなってしまい、今年からは辞めることになったとのこと。センターとしての役割がだんだんと無くなってきてはいるものの、ラカインの人々にとってはこのセンターは無くてはならない場所となっています。月1度3村の先生の集まる場として、ラカイン族の方の集まる場があるという安心感、これから始まるかもしれない婦人達の集まる場として、他にまだまだ役割はあると思っています。

4日目 最終日

今回も訪問を通してこのような活動が出来る事はNPOアースキャラバン会員の皆さま、そして里親の皆さまのご理解とご支援のお陰と思えました。なかなか思う様に進まない支援活動に皆さまの中には苛立ちを感じていらっしゃる方もいらっしゃると思います。私自身もそのジレンマに陥りながら訪問を重ねています。

ですが自立支援は大変時間の掛かる忍耐を要求される支援と思っています。皆さまにはこのことをご理解頂き引き続いてのご支援を心から願っております。

子ども達にとって私たちの支援は実感が湧かないと思います。年1回やって来てノートを配る人くらいにしか思っていないと思います。

でもどこかの世界の人が自分たちのことを心配してくれているんだと子ども達が思ってくれるならそれだけでもいいのかと思います。

皆さまに心から感謝致します。

世界中の子ども達は私たちの未来の鏡そのもの。

みんなに笑顔になって欲しい！

みんなに世界のことをいっぱい知って欲しい！

みんなでお互いを助けあえる人になって欲しい！

みんなで良き未来を創造して欲しい！

果たしてNPOアースキャラバンの支援は子ども達の未来にとって意味ある支援なのかどうか、物優先の支援をしていないだろうか、支援することに満足していないだろうか、今回も自問自答しつつダッカ空港を飛び立ちました。

NPO法人アースキャラバン
里親・村支援プロジェクト一同

